令和５年度

商品の基礎知識

11　新潟翠江高等学校（通信制）

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験回数
選択	2	6	6	2

準教科書	副教材
『商品開発』（実教出版）	『社会への扉』（消費者庁）

学　習　目　標

商品開発に関する知識と技術を学ぶことによって、販売者・サービス提供者になった場合の「顧客満足を実現」することの重要性を理解させるとともに、自らの購買行動・消費活動を振り返って賢い消費者となるための基礎を身につけさせる。

学　習　内　容

（１）商品の多様化とその開発（第１回レポート）
（２）商品ができるまで（第２・３回レポート）
（３）商品とデザイン（第４回レポート）
（４）商品に絡む知的財産権（第５回レポート）
（５）商品の流通（第６回レポート）

＜前期試験範囲＞
＜後期試験範囲＞

学　習　方　法

・レポート

前期は、新しい商品がどのように開発されるかを追っていきます。後期は、商品開発にかかわるデザイン、知的財産、流通の各分野を取り上げます。教材は準教科を使用しますが、単元は『商品開発』の流れに沿って進みます。価格・流通・販促戦略，知的財産，金融に関わる部分では『社会への扉』を使って消費者の視点も交えていきます。準教科書にはみなさんも知っているような事例がたくさん載っています。レポートの解答を探すだけでなく、それらの事例をよく読み、実際の生活に注意を払ってみることが、学習を深め、役に立つ知識を得ることにつながります。買い物をすること、広告や宣伝を見ることなど、実際の生活がそのまま教材となるのです。

レポートの問題文は、準教科書の本文とは必ずしも一致しません。また答えるべき用語も準教科書に太字で書かれているものとは限りません。そのため、インターネットなどを利用して自分で調べる必要があります。また、レポートで商品デザインを考える実習課題もあります。実際に商品化される可能性もありますので、真剣に取り組んでください。

・授業

授業では基本的にレポートの解説をしますが、準教科書で取り上げられていない消費者として商品を見た場合の注意点なども取り上げていきます。一度、レポートに目を通してから、授業を受けた方が、より授業の内容を深く理解することができます。

・試験

試験には，レポートの学習内容を確認する問題を出します。準教科書を細部まで暗記する必要はありませんが、内容を理解してきてください。レポートの解答だけを覚えてきても試験問題は解けません。

評価規準と評価方法

（１）レポートの評価　（２）授業の出席状況　（３）試験の成績などを総合して評価します。
レポート、定期考査の評価は次の観点で行います。

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
商業の各分野に関する基礎的・基本的な技能を身に付け、ビジネスの諸活動を合理的に計算し、その技術を適切に活用している。また、ビジネスの意義や役割を理解している。	ビジネスの諸活動に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	ビジネスの諸活動に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。

担　当　者　よ　り　一　言

あなたが売り手であっても買い手であっても役に立つ内容です。しかし，漫然と準教科書を写しているだけでは全く役に立ちません。「なるほど」と興味・関心を持って学習することが，上手な売り手賢い消費者になる秘訣です。